



豊かな体験、つながる心

園長 原田 幸子

早いもので、今年も残り1か月となりました。保護者の皆様には、毎朝の検温と健康カードへの記入、保育や行事の変更へのご対応、さくら和会の活動など、たくさんのご協力をいただき心より感謝申し上げます。

子どもたちは、4月に入園、進級し、友達や先生と関わりながら様々な体験を重ね、一人一人に大きな成長が見られます。特に、自分の思いや考えを生き生きと動きや言葉に表す姿から、園生活を十分に楽しんでいることが感じられます。

先日、5歳児が行った遊園地ごっこは、1歳児から5歳児まで、柳町こどもの森が一体となって楽しむことができました。5歳児は、昨年、年長組に招待してもらったことを思い出し、「やってみたい」と意欲をもって、相談や準備を進めました。お客さんが楽しめるように、相手の立場に立って工夫したり、当日の案内を優しくしたりしていました。年長児として、思いやりの気持ちをもって活躍し、とても頼もしい姿でした。招待状をもらった1歳児から4歳児までの子どもたちも、とても楽しみに待ち、当日はお兄さん、お姉さんの話をよく聞きながら、それぞれのコーナーを楽しんでいました。終わりの時間には「ありがとう!」「バイバイ」と手を振りながら、お別れを惜んでいました。乳児クラスから大きいクラスまでがある本園ならではの、異年齢交流ができた素敵な行事となりました。

坪田先生（ツボタマン）においでいただいた「みんなで遊ぼう会」では、楽しい雰囲気の中で、ジャンプやじゃんけんゲームなどの体を動かす遊びを楽しむことができました。終わりの挨拶時に、ツボタマンから「空を飛んで帰るから、部屋に戻ったら、空を見てね!」とお話があり、子どもたちは急いで保育室に帰り、テラスから空を見上げました。「ツボタマンが、飛んで帰るのが見えた!」「どこ、どこ?」と大騒ぎでした。運動遊びを教えていただくだけでなく、ワクワクする心もいただくことができました。

プロナチュラリストの佐々木先生をお招きしての小石川植物園での自然観察会では、5歳児が目を輝かせながらお話を聞いていました。「虫博士」の佐々木先生は、皆の憧れの存在です。昨年教えていただいた「モグラのチャーハン（モグラが掘った後にできる土の小山）」もしっかり覚えていて、佐々木先生も感心していました。

様々な人との関わりや思い出に残る体験が心の糧となり、成長のきっかけにつながります。未来に夢と期待をもって、一歩ずつ歩む子どもたちを私たち大人が支えてまいりましょう。